

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

飛騨高山高等学校通信制課程

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身に付けさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、周囲と協働できる生徒 ・互いの人格を尊重し、周囲と交流しながら、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・郷土を愛し、地域の発展のために地域や社会に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・課題の発見・解決能力を伸長するための「主体的・探究的な学び」の面接指導を推進 ・「思考」「判断」「表現」の力を伸長し適切に評価するレポート課題の作成 ・生徒の個性や長所を伸ばすためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち、周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒 ・自らの目標や希望を実現するために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・生徒会活動や学校行事及び他校との交流などに自主的に参加し、周囲とのより良い人間関係を築いていく意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇ 教育課程・学習指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	○一斉スクーリングではICT機器を活用した学習活動や協働的な学びを行う機会を積極的に設け、それを苦手とする生徒には個別支援を丁寧に行ってきた。生徒・保護者アンケート共にその評価は高かったため、効果はあったと思われる。 ▲協働的な学びに対する評価は上がったものの、全く有意義だと思わない生徒も一定数いるため、生徒自身が、他者との関係を築く大切さを感じられる活動が必要である。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇個に寄り添った丁寧な個別指導を行う。 ◇卒業後の進路を視野にいれて、自己理解を促す。 ◇ICT機器を活用した学習活動を行う。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・分掌の主任を中心として情報を発信し、全職員で情報を共有し、共通理解のもとで生徒指導・支援にあたる。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 使用教材の見直しや指導・支援の方法を見直し、生徒の実状に合ったレポート作成・授業を行う。 (2) 協働する意義やソーシャル・スキルを学ぶ機会を学校生活の中にも多く設け、自己理解を促す。 (3) デジタルレポート提出の導入。	(1) 生徒および保護者を対象とするアンケート結果の分析(レポート・テスト等の関連項目) (2) ソーシャル・スキルレポートおよび各行事でのアンケート分析、スクーリング時の観察 (3) 生徒アンケートの結果分析	II 評価 (A) B C D A (B) C D A (B) C D
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	
・各教科でレポート評価基準を明確にし、客観性を高めた。 ・生徒の作成したソーシャル・スキルのレポートを全職員で回覧し共通理解をもって指導・支援した。 ・デジタル提出を実践している学校から講師を招き、講義を受ける。今年度は2科目で試みる。	・分析結果がレポート・授業改善に反映しているか。 ・生徒の実態に合った指導・支援ができていないか。 ・レポートの提出状況に改善が見られたか。	総合評価 A (B) C D
12 成果・課題	○個々の生徒に適した指導・支援を行えるように、教員間で密に情報交換し、共通理解のもとで指導・支援にあたったことで、生徒の満足度が増したと考える。 ▲生徒の多様化が進み、特別支援的アプローチや医療的対応が求められるケースが年々増している。スクーリングとは別に、学習習慣を定着させる個別支援を行ったり、生徒理解のための職員研修を実施したりすることが必要である。	

13 来年度に向けての改善方策案

個々の実態に合った学習計画を立て、保護者と連携を取りながら指導・支援にあたる。PDCAサイクルを活用し、生徒が各学習期間に学習状況を振り返り、学習計画を見直せるように改善する。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

【意見・要望・評価等】

- ・これからは生徒がAIをどのように使いこなせるかが問われる。ICT活用を意識した授業を活発に行って欲しい。
- ・一様な指導ではなく、個やケースに合わせた指導を心掛けて欲しい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

飛騨高山高等学校通信制課程

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身に付けさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、周囲と協働できる生徒 ・互いの人格を尊重し、周囲と交流しながら、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・郷土を愛し、地域の発展のために地域や社会に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・課題の発見・解決能力を伸長するための「主体的・探究的な学び」の面接指導を推進 ・「思考」「判断」「表現」の力を伸長し適切に評価するレポート課題の作成 ・生徒の個性や長所を伸ばすためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち、周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒 ・自らの目標や希望を実現するために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・生徒会活動や学校行事及び他校との交流などに自主的に参加し、周囲とのより良い人間関係を築いていく意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇ 進路指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	○ほとんどの項目において肯定的評価が増えた。 ○特に「生徒の希望に添った進路指導」では、生徒ABで+8.8・保護者ABで+20.7となった。今後とも、生徒の希望に添って進路指導を行っていく必要がある。 ▲「生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」では、アンケートの実施時期が、指定校や求人票一覧の開示前であることが影響している可能性が考えられるので、前年度の情報を参考として、早い時期に生徒に周知する必要がある。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇望ましい勤労観・職業観を形成させて、社会的自立を促進する。 ◇主体的な進路設計ができるように指導し、卒業後の進路実現を目指す。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・分掌の主担当者を中心として、全職員が共通理解の上取り組む。 ・年度当初の懇談や卒業予定者への三者懇談の実施を継続する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 外部講師による進路講話及び職員による進路ガイダンスを実施して、生徒及び保護者の進路意識を高める。 (2) 面接指導(スクーリング)及び個別面談等を通して、自己の能力・適性や可能性に気付かせるとともに、適時に進路情報を提供する。 (3) 随時、進路相談を行って就労の実態や進路希望を把握し、学力補充・面接指導など、卒業後の進路を見据えた指導を個に応じた実施する。	(1) 生徒及び保護者を対象とするアンケート (2) 生徒就業状況及び進路希望調査 (3) 進路先決定状況	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・生徒就業状況及び進路希望調査を実施して実態把握に努めた。 ・進路説明会、個別の学力補充、小論文指導、面接指導を実施した。 ・職員による進路説明会(保護者対象)及び進路ガイダンス(生徒対象)を実施した。	①生徒の実態把握と情報提供は十分にできたか。 ②個々の進路希望に応じた適切な支援ができたか。 ③進路関係についての認識が深まったか	A (B) C D (A) B C D (A) B C D

12 成 果 ・ 課 題	<p>○卒業予定者を対象に、具体的な学習指導、面接練習、志望理由書、履歴書等の支援と個別面談を繰り返し実施し成果を上げることができた。就職希望者についてハローワークとも連携して指導・支援した。</p> <p>○外部講師による進路講話及び職員による進路ガイダンスを実施し、生徒、保護者に有益な情報を提供することができた。</p> <p>▲卒業後の進路に関して「新たな一歩」を踏み出すことが難しい生徒がいる。具体的な進路目標の設定、能動的な進路決定、そして進路実現ができるように、適切な指導や対策の工夫が課題である。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>(A) B C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路実現に向けて、最善の支援が行えるように、全職員の共通理解によって個々の生徒の状況や日頃の様子に注意を払い、的確な進路指導を実践する。 ・飛驒通信やホームページへの掲載を通じて、保護者への進路に関する情報提供をより充実させる。 ・前年度の指定校や求人票一覧の情報を参考として、早い時期に生徒に周知する。 ・年度当初の懇談や卒業予定者への三者懇談の実施を継続する。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から丁寧に指導をしていただき感謝している。 ・学校評価アンケートの結果が低迷しているも、時期の問題もある。丁寧に分析を行って適切な指導に役立てていただきたい。
--

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

飛騨高山高等学校通信制課程

I 自己評価

1 学校教育目標	(1)「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材育成を目指し、社会人としての一般教養を身に付けさせるとともに、創造性にあふれ、明朗快活で心豊かな人間性を養う。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・豊かな思考力と適切な判断力を身に付け、周囲と協働できる生徒 ・互いの人格を尊重し、周囲と交流しながら、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・郷土を愛し、地域の発展のために地域や社会に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・課題の発見・解決能力を伸長するための「主体的・探究的な学び」の面接指導を推進 ・「思考」「判断」「表現」の力を伸長し適切に評価するレポート課題の作成 ・生徒の個性や長所を伸ばすためのカリキュラム編成と個に応じた細やかな指導の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・向上心と、多様性を尊重する姿勢を持ち、周囲と協働しながら主体的に学ぶ意欲を持つ生徒 ・自らの目標や希望を実現するために、主体的に学ぶ意欲のある生徒 ・生徒会活動や学校行事及び他校との交流などに自主的に参加し、周囲とのより良い人間関係を築いていく意欲のある生徒

3 評価する領域・分野	◇ 生徒指導(教育相談)・特別活動・保健管理		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	○生徒向け各アンケートからはいじめの被害は見受けられなかった。カウンセリング希望者は随時スクールカウンセラーにつなぐことができた。スクールカウンセラーとも連携し、情報収集に努めた。 ○基本的なモラルやマナーの指導に関する評価は生徒・保護者共に肯定的な意見が昨年度よりも増した。 ○「いじめや差別を許さず、厳しく対応している」「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」といった項目では、保護者の肯定的な意見が昨年よりも増えた。これらは日常的な指導に加えて情報モラル講話や集会での指導やアンケートを用いた予防的な対応が評価されたものと考えられる。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・安全・安心な環境づくりを進め、個に寄り添い、自己肯定感を高めるように努める。 ・自他の人格と生命を尊重し、健全な人間関係を築かせるとともに、社会性の育成に努める。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・少ない職員の中、分掌の主担当者を中心に連絡を密に取り、全職員体制で取り組む。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒の事態把握のための各種アンケートの実施・分析を行うと共に、懇談を随時実施し、学級担任を中心に保護者や教科担任・特別支援コーディネーターと連携して生活及び学習の支援に努める。必要に応じて、スクールカウンセラー等の専門家と連携する。 (2) 生徒の主体的な伸長を図るため、学校行事・部活動・生徒会活動の活性化を図り、生徒が自主的に活動できるように計画的な指導・支援に努める。 (3) 良好な対人関係の構築や社会性を育むために、あらゆる場面を通してコミュニケーション能力の育成を図るとともに、職員間での情報共有を徹底する。	(1) 心のアンケート、スクールライフアンケート、いじめのアンケート、生徒及び保護者を対象とするアンケートの実施と結果分析。 (2) 学校行事・生徒会活動の参加率及び部活動加入者数及び活動状況・大会成績。 (3) 職員会議・職員室での職員間の情報共有、必要に応じて養護教諭・SC や外部機関との情報共有。		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態をできる限り早期に把握し、学校適応のための支援を行った。 ・全職員が連携して生徒の様子を観察したり、情報共有をしたりして指導や支援を行った。 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外部機関と連携し、生徒を多面的に支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) スクーリング参加率やレポート提出率の維持等、通信制の学習活動に適応しているか。 (2) 生徒実態や課題に沿った指導・支援がなされているか。 (3) 学校組織マネジメントを機能させ組織的な対応がなされているか。 	<p>A(B)C D</p> <p>A(B)C D</p> <p>(A)B C D</p>
12 成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予防的生徒指導を意識して実践しており、今年度は大きな問題行動はなかった。 ○ 多様化する生徒に対応するため、職員研修で「合理的配慮」について学んだ。また、常に生徒の情報共有を徹底し、日頃の指導に役立てた。 ○ 生徒実態の多面的な理解と支援のため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を強化した。 ▲ 不登校経験者が多くいる中で、それぞれの生徒に寄り添いながら学習を支えたり、人間関係の構築や社会性が身に付くような支援をしたりすることが課題である。 	<p>総合評価</p> <p>A(B)C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不安定な生徒には共感的な姿勢で接したり、生徒によっては答えを急がない気持ちで接したりすることを心がけ、生徒自身の変化や成長に寄り添うことを心がける。また、社会性に関する面ではスクーリングを欠席する際は事前に連絡を入れることを確認したり、授業のみでなく生徒会や行事への積極的な参加を勧めたりする。 ・ 支援の必要な生徒や不登校経験者には、担任・特別支援教育コーディネーター・教育相談担当者・養護教諭・特別支援教育支援員など多くの視点で生徒の様子を見守り、学習面だけでなく卒業後の生活を見据えた支援を行う。 ・ 特別支援教育コーディネーターを中心に保護者や外部機関との連携を図り、相談機関の紹介や卒業後も利用できる事業所を紹介し、自立につなげる。 ・ 生徒が各学習期間の締め切りや年度末になって困らないようにしたり、計画的に学習を進められるようにしたりする。入学当初に通信制のシステムを詳しく説明し、保護者と生徒に理解してもらうことが重要である。 		

II 学校関係者評価

実施年月日: 令和6年1月26日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃から個々に丁寧に指導をいただき感謝している。 ・ 多くの生徒が生徒会に自ら立候補するなど学校生活に前向きな姿勢が見られて大変喜んでいる。
--